

言語を軸に
据え社会との
接点を考える

東京言語研究所 開設 50 周年記念 公開講座

東京言語研究所は、今年開設 50 周年を迎えました。50 周年を記念する公開講座では言語を軸に据え社会との接点を考えることを目的としています。

今回は下記の要領で開設 50 周年記念公開講座を開催いたします。奮ってご参加ください。

**<演題> 難病患者の失われる声を救うマイボイス：
言語学が社会に貢献できること**

<講師> 川原繁人氏（慶應義塾大学准教授）

<日時> 2017 年 2 月 25 日(土) 14:00~17:00

<会場> 東京言語研究所（新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル 13 階）

<参加費> 一般 1,500 円 学生 1,000 円（当日学生証提示）

***2016 年度理論言語学講座受講生は 500 円** ※参加費は当日現金でお支払下さい。

<申込み> ホームページ申込みフォームもしくは FAX でお申し込みください。定数:60名

- ①公開講座受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号 ⑦ E メールアドレス
⑧区分（2016 年度理論言語学講座受講生・一般・学生） ⑨所属（大学生・大学院生・教員・会社員・その他）

（上記情報は東京言語研究所事業以外には一切使用いたしません。）

講師紹介

マサチューセッツ大学博士（2007 年、言語学）。ジョージア大学、ラトガーズ大学助教授を経て、現在慶應義塾大学言語文化研究所准教授。最近の著書に『音とことばのふしぎな世界』（岩波サイエンスライブラリー）がある。専門は音声学、音韻論。また「言語学の結果を社会へ還元する」手段を積極的に模索している。Phonology, Natural Language and Linguistic Theory, Language, Journal of Linguistics, Linguistics, Journal of Phonetics, Phonetica, Language and Speech, Lingua, Journal of East Asian Linguistics など国際学術雑誌に多くの論文を掲載。Linguistic Vanguard など国際学術雑誌の編集者も務める。



問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター
東京言語研究所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1

西新宿三井ビル16階

TEL:03-5324-3420

FAX:03-5324-3427

ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

【講義要旨】

本講義では、「言語学と社会の架け橋」の一例として、私が研究支援を行っている『マイボイス』を紹介する。

日常生活で何気なく使っている「自分の声」を病気によって失うことがある。ALS（筋萎縮性側索硬化症）のような神経性難病では、筋肉が徐々に動かなくなり、自分の声を使った発話が困難になる。さらに、自発呼吸が難しくなった場合、気管切開によって人工呼吸器の装着を余儀なくされ、自分の声帯を完全に失う。

このような患者の方に対して、東京都立神経病院では、自分の声を失う前に、日本語の基本モーラを録音しておき、声を失ったあとでも自分の声でコミュニケーションを続けることができる『マイボイス』というソフトを開発・改良している。また、手先が動かなくなった後でも、キーボード入力が可能になる『HeartyLadder』や Tobii の視線入力機器を生かした『HeartyAI』なども開発している。ALS が進行し眼球運動しか自由にならなくなったある患者の方は、視線入力の HeartyAI を駆使して小説を執筆し、見事に内田康夫ミステリー文学賞を受賞した。

私は、録音した患者の方の音量やピッチ、長さを調整したり、プログラミングによって単純作業を自動化することで、マイボイスに貢献してきた。また、患者の方、臨床現場の作業療法士の方、大学の研究者、学生などが交流する場を設けるために、慶應義塾大学にてワークショップを随時開催している。ワークショップでは最新のマイボイスや HeartyAI の紹介・実習、マイボイスに関する研究発表を行っている。また、患者の方々のマイボイスに関する体験の紹介など、現場からの様々な声を積極的に聞く機会となっている。これらの取り組みは、研究機関としての大学と臨床現場である病院との垣根を越えた共同研究である。さらに、私はマイボイスの活動を授業で積極的に紹介している。興味がある学生は、教員と一緒に東京都立神経病院を訪問したり、上記のマイボイスワークショップに参加したりしている。この取り組みは、大学での学びを社会にどのように還元するのかを考える機会を学生に与えている。

本講義では、このような活動を紹介しながら「言語学と社会の関わり」について議論を進めていく。



『ことばの宇宙への旅立ちー10代からの言語学』大津由紀雄編 好評発売中

第一線で活躍する言語学者自身の研究の紹介や言語学を志すきっかけなどのエピソードが盛り込まれています。発行：東京言語研究所／発売：ひつじ書房

書店にない場合は直接研究所にご注文ください。